

は じ め に

近年、全国的に少子化が進み、人口減少が社会全体の問題となる中で、子育て家庭の負担や不安、いじめや不登校など、こどもを取り巻く環境も深刻な状況となっています。

今まさに、すべてのこどもが安心して健やかに成長できる環境を整え、保護者や地域全体で、こどもと子育て家庭を支援するための新たな支え合いの仕組みづくりが求められるところです。

そうした中、本町では、母子保健と児童福祉の両機能が連携・共働し、すべての妊産婦、子育て家庭、こどもへの切れ目ない相談体制を構築するため、令和6年4月に「こども家庭センター」を開設しました。また、令和7年4月には、不登校のこどもが安心して学び、こどもに応じた特別な教育課程を行う「学びの多様化学校」が開校します。すべてのこどもが学びにアクセスできる新たな学校は、学校に行きたくてもいけない児童・生徒に対し、学習の機会を確保します。

こどもは次代を担う社会の宝です。その宝であるこどもが、自分らしく健やかに成長できるよう、「子育てするなら宇美町で」を合言葉に、妊産婦と子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、子育てしやすい環境づくりに力を入れてまいります。

このような取組を具体的に推進していくため、この度、令和7年度から令和11年度を計画期間とする「こども計画」を策定しました。本計画は、従来の計画である「子ども・子育て支援事業計画」に加えて、「子ども・若者計画」「子どもの貧困計画」を包含した計画となっており、子育て支援とともに、若者が自分らしく生きることができるようまちづくりに力を入れていきます。仕事と家庭の両立、結婚・出産への不安など、若者世代が抱える悩みにも寄り添い、安心して将来設計ができるよう支援の充実を図ってまいります。

最後になりましたが、本計画を策定するにあたり、「宇美町子ども・子育て会議」委員の皆さまをはじめ、アンケート調査やオンライン意見箱、若者トークカフェ、こども会議、パブリックコメントなどを通じて町民の皆さまには多くのご意見をお寄せいただきました。子育て中の保護者の方々はもちろん、これからこどもを持ちたいと考えている若者の皆さま、そして町の未来を担うこども自身の声を聞くことができたことは、とても有意義な機会となりました。皆さまの貴重なご意見に心より感謝を申し上げます。

令和7年3月

宇美町長 安川茂伸

